

公共放送 NHK を再考する
～NHKスペシャル「JAPANデビュー “アジアの一等国”」を題材にして～
Public broadcasting NHK is reconsidered
～NHK Special "The JAPAN debut "First-class power of Asia"
is made a theme～

1K06B019

石河 秀平

指導教員 主査 リー トンプソン 先生

副査 宮内 孝和 先生

【序章】 動機と主題

現在、世の中には様々なメディアにより、情報は発信されている。インターネットに代表される、不特定多数の人々に対して情報を発信することを念頭におかれたマスメディアの台頭により、その情報量の絶対数は増加した。さらに、グローバル化により同時代同地域に生きる人々が実に多様な価値観やバックグラウンドを持つ社会となった。時代は、マスメディアを多メディア多チャンネル化へと向かわせている。こうした背景の中で、2009年4月5日に、NHKスペシャル「JAPAN デビュー “アジアの一等国”」は放送された。この番組は、日本の台湾統治を批判的な視点により描いたことにより、偏向報道であると批判され、事態は訴訟問題にまで発展した。公共放送NHKはといったどのような意図でこの番組を放送したのか。そして、多メディア多チャンネルの時代において、公共放送はどのようにふるまうべきなのか。メディア全体の中でのこの番組が果たした役割を検証することにより、前述したような新たな時代に見合った公共放送NHK論へと展開していくことを本論文では試みている。

【第一章】メディアが形成する日本と台湾

メディアがいかに情報を伝えているかを、日本と台湾の関係についての認識について考察することで明らかにしていきたい。そして、それ

と同時に日本国内でいかに台湾が、そして台湾国内で日本がどう報じられているかを論じ、社会が異なるとマスメディアの影響も異なることがわかる。それらは後に検証するNHK番組との比較材料とすることができるだろう。日本国内のメディア環境を把握し、新たな公共放送NHK像を考える助けとなると考える。

【第二章】NHK番組をめぐる論争

NHK番組に関する批判を朝日・読売の両新聞報道から集積し、そこから集約される批判者の論点と、番組表現を照らし合わせることで、批判の不当性、NHK番組の正当性について言及していく。さらに、新聞報道におけるこの論争の描かれ方を調べることで、メディアが多角的な意見を受け手に提供する必要性を強調する。ここではNHKの報道姿勢にも触れる。

【第三章】多メディア多チャンネル時代と既存の公共放送論

現在の傾向である多メディア多チャンネル化を踏まえて、定説とされてきた公共放送論がこの時代性に当てはまるのかを検証する。さらに他国の公共放送がすでに辿った変容を参照することにより、NHKについての考察につなげる。

【第四章】多メディア多チャンネル時代におけ

る新たな公共放送NHK論

多メディア多チャンネル時代における新たな公共放送論を提示することにより、さらにNHK番組の正当性を強調することにもつながり、またNHKの果たすべき役割も見えてくる。それは、事実に基づいた一般性をもつ情報を流す旧来の公共放送の役割とともに、多メディア化により偏ってしまった情報バランスを均衡化することが今後の公共放送NHKの役割であり、他メディアとの差別化となるだろう。